2009年8月18日(火)
上毛新聞
電子速報
上毛新聞
購読のお申し込みは
0120－808046
http://www.raijin.com/

金大中氏が死去

85歳

韓国の民主化主導

南北首脳会談実現 ノーベル平和賞受賞

2000年6月、南北共同宣言の署名前、北朝鮮の金正日総書記（右）と手を握り合う韓国の金大中大統領＝平壌の百花園迎賓館（共同）

【ソウル共同】日本からの拉致事件や死刑判決などの苦難に遭いながら韓国の民主化運動をけん引し、2000年に北朝鮮の金正日（キムジョンイル）総書記との南北首脳会談を実現させノーベル平和賞を受賞した韓国の金大中（キムデジュン）元大統領が18日午後1時43分（日本時間同）、ソウルの病院で死去した。85歳。病院が同日、発表した。肺炎のため今年7月13日から入院していた。

1998年2月から5年間の任期中、「国家破産の一歩手前」といわれた未曾有の通貨危機を克服する一方、対北朝鮮「太陽（包容）政策」を掲げ、南北交流・協力を推進。日本の大衆文化の段階的開放に踏み切り、02年のサッカー・ワールドカップ（W杯）日韓共催を成功に導くなど対日関係改善にも尽力した。

日本の植民地支配時代の24年、全羅南道新安で生まれた。61年、国会議員に初当選。71年の大統領選で当時現職の朴正熙（パクチョンヒ）大統領に惜敗。73年8月、東京のホテルから当時の韓国中央情報部（KCIA）に拉致され、ソウルに連れ戻された。

80年の光州事件を首謀したとして死刑確定したが、82年に刑の執行停止で釈放、渡米。その後も大統領選に2回落選、政界引退も表明したが復帰し、4度目の挑戦となった97年の大統領選に勝利。韓国初の与野党政権交代を実現した。

大胆な構造改革を進め「情報技術（IT）大国」を建設。対北朝鮮では金剛山観光事業など交流・協力事業が活発化。南北離散家族再会のほか、朝鮮半島を縦断する鉄道・道路の連結にも力を入れたが、政権末期には贈収賄事件などで側近や2人の息子が逮捕された。

08年2月の李明博（イミョンバク）政権発足後に南北関係が悪化の一途をたどり、金剛山観光事業中断など対話・交流の後退を深く懸念していた。09年5月の盧武鉉（ノームヒョン）前大統領自殺以降は李政権を激しく批判、全面対立状態になった。

Copyright©2009 THE JOMO SHINBUN